

令和3年度(第2回)
サステナブル建築物等先導事業(省CO₂先導型)
概評と今後の動向

エネルギーシステム分野に
おける立場から

サステナブル建築物等先導事業(省CO₂先導型)評価委員
東京工業大学 特命教授
柏木 孝夫

今回の応募と採択について

- 応募案件(当分野)は2件→2件を採択
- 今回の応募案件の特徴
 - 既存の大学キャンパス内における新棟整備において、既存棟とも連携し更なる高効率化を目指すプロジェクト
 - 大規模複合開発において、各種未利用エネルギーも積極的に活用して、街区としての全体最適化を目指すプロジェクト

採択案件の概評①

立命館大学OIC新展開施設整備事業

提案者：学校法人立命館

<概評>

- 建築計画、設備計画の両面で多様な省CO₂対策に取り組むほか、既存棟との熱融通やデジタルツインを活用したエネルギーマネジメントによって更なる高効率化を目指す取り組みは先導的と評価した。
- 当該施設において新たに導入される各種技術の教育利用や、実証結果の積極的な情報発信が展開され、波及・普及につながることを期待する。

採択案件の概評②

うめきた2期地区開発における エネルギーマネジメントプロジェクト

提案者：株式会社関電エネルギーソリューション
関西電力株式会社
うめきた2期開発事業者JV

<概評>

- 大規模複合開発において、各種未利用エネルギーを積極的に活用し、街区全体で取り組むエリアエネルギーマネジメントは先導的と評価した。
- 多くの関係者によるエネルギーマネジメントモデルとなるべく、着実な取り組みが展開されるとともに、実証結果の積極的な情報発信によって、波及・普及につながることを期待する。

今後の期待

- 電力と熱の両面からのシステム全体の最適化や脱炭素化、BCP対応
- 周辺地域も含めたエネルギー利用の効率化やエネルギー需給バランス制御につながる提案
 - 新築を起点に周辺の既存建物の脱炭素や省エネに貢献する提案
 - エネルギーシステムだけではなく、建築的対策にも積極的に取り組む提案 など

令和3年度(第2回)
サステナブル建築物等先導事業(省CO₂先導型)
概評と今後の動向

省エネ建築・設備分野に
おける立場から

サステナブル建築物等先導事業(省CO₂先導型)評価委員
慶應義塾大学 教授
伊香賀 俊治

今回の応募と採択について

- 応募案件(当分野)は11件→10件を採択
(採択内訳:一般部門6件、中小規模建築物部門4件)
- 今回の応募案件の特徴
 - 地方都市における商業、事務所、市庁舎、大学、複合用途など、多様な建物用途の新築提案
 - 今年度から新たに設定された優先課題(課題2:省CO₂の実現と健康性・快適性等の向上)に対応する提案が多く見られた。
 - SDGsへの取り組みについて言及する提案も増えている。

採択案件の概評 <一般部門①>

豊川市八幡地区における「自然と共生する 先導的商業施設」の提案

提案者：イオンモール株式会社

<概評>

- 大規模商業施設として自然換気に取り組む点は興味深く、建築計画、設備計画において多様な省CO₂技術を導入することでZEB Readyの達成を目指す取り組みは先導的と評価した。
- SDGsへの取り組みも意欲的で、来店者などに分かりやすい広報・情報発信を行い、波及・普及につながることを期待する。

採択案件の概評 <一般部門②>

(仮称) 淀屋橋プロジェクト

提案者：中央日本土地建物株式会社
京阪ホールディングス株式会社

<概評>

- 大規模オフィスビルとして、低温排熱の有効活用などの様々な省CO₂対策を導入するほか、健康性・快適性向上に向けた対策にも積極的に取り組む点は、先導的と評価した。
- 地方公共団体とも連携し、実証結果と合わせて積極的な情報発信が展開され、地域への波及・普及につながることを期待する。

採択案件の概評 <一般部門③>

アルプスアルパイン古川開発センターR&D棟

提案者:アルプスアルパイン株式会社

<概評>

- 寒冷地の特性を踏まえ、建築計画、設備計画においてバランスの良い省CO₂技術を導入し、Nearly ZEBの達成を目指す取り組みは先導的と評価した。
- 運用後の細かな制御による最適化への取り組みなど、実証結果の積極的な情報公開が展開され、波及・普及につながることを期待する。

採択案件の概評 <一般部門④>

小松駅東地区複合ビル整備事業

提案者： 北電産業小松ビル合同会社
北陸電力ビズ・エナジーソリューション株式会社

<概評>

- 特徴的なファサードデザインなど、建築計画、設備計画において北陸の地域特性を踏まえた多様な省CO₂技術を導入し、ZEB Readyの達成を目指す取り組みは、先導的と評価した。
- 各種実証結果の積極的な情報発信が展開され、波及・普及につながることを期待する。

採択案件の概評 <一般部門⑤>

守山市新庁舎『つなぐ、守の舎』整備事業

提案者：守山市

<概評>

- 建築計画、設備計画においてバランスの良い省CO₂技術を導入し、地方都市の庁舎建築としてZEB Readyの達成を目指す取り組みは先導的と評価した。
- SDGsや健康性・快適性向上に向けた取り組みも積極的であり、実証結果も合わせた広報・情報発信が展開され、波及・普及につながることを期待する。

採択案件の概評 <一般部門⑥>

立命館アジア太平洋大学新学部 設置に伴う施設整備事業

提案者：学校法人立命館

<概評>

- 多数の留学生が利用する施設として、地域材の積極的な活用のほか、厳しい地域の気候特性と共生し、利用者の行動によって、健康で快適な場を作り出そうとするなどの取り組みは、建物自体を教育利用することと併せ、さらなる波及・普及につながることを期待する。

採択案件の概評 ＜中小規模建築物部門＞

- 採択件数(再掲): 4件
- 地方都市における事務所、イノベーションセンター、教育施設の新築プロジェクト
- いずれもCASBEE・Sランク、BELS・5つ星の達成を目指し、建築計画、設備計画において多様な技術がバランス良く提案され、類似用途の中小規模建築物等への波及性・普及性が期待できるものと評価

今後の期待

- 採択事例の少ない地域の提案
- 過去の採択事例で提案された様々な省CO₂技術を上手く活用し、省CO₂の波及・普及につながる提案
- カーボンニュートラルの実現に向けた道筋を明示する取り組み、SDGsへの貢献につながる取り組み、省CO₂の実現とともに付加価値の増進につながる取り組みなど、多様な提案を期待

令和3年度(第2回)
サステナブル建築物等先導事業(省CO₂先導型)
概評と今後の動向

生産・住宅計画分野に
おける立場から

サステナブル建築物等先導事業(省CO₂先導型)評価委員
東京大学大学院 教授
清家 剛

今回の応募と採択について

<一般部門>

- 応募案件(当分野)は1件、採択はなし
(共同住宅:1件→0件、戸建住宅:0件→0件)
- 応募案件の特徴と評価
 - 共同住宅の新築プロジェクト
 - 様々な高効率設備の採用も提案するものであったが、各種機器を統合化するシステムとしての設計思想や運用方法が不明確であるなど、運用効果に不安も残り、先導的との評価には至らなかった

今後の期待①

- 本事業では、これまでに住宅分野の様々な先導的な取り組みを評価してきた
- 現在、特定分野における取り組みは、他の補助事業や特定の部門などで支援されている
 - ＜例＞
 - ・地域型住宅
 - ・ゼロ・エネルギー住宅
 - ・LCCM住宅 など
- 各種補助事業を活用して、全国各地の様々な事業者による取り組みの広がりを期待

今後の期待②

- 本事業の一般部門では、今後とも省エネ・省CO₂の対応が遅れている分野での底上げ、新たな価値の創出につながる工夫を盛り込んだ提案などを期待
 - 既存住宅や賃貸住宅等での省CO₂促進
 - まちづくり、コミュニティとしての取り組み促進
(マネジメント、シェアなど)
 - 省CO₂と健康性の増進、子育て・介護支援
 - 波及や普及につながる具体的な工夫、補助事業の実施後の効果や展開などを明確にした提案
(住まい手への訴求、作り手の技術力や営業力の向上等)